

令和8年度 第1回笠利町地域協議会

笠利版地域創生戦略

住民実感アンケート調査結果報告

令和8年7月13日

笠利総合支所 地域総務課



目次 本日の説明内容

1

調査の目的



2

調査概要・回答導線



3

全26項目のKPI達成状況



進め方

まず調査結果の全体像を確認し、後半で重点対応案と地域協議会で確認したい論点を整理します。

1-1

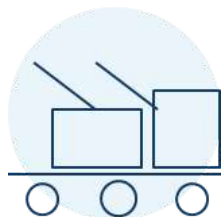
調査の目的

10年後の「ありたい姿」に向けて、現在地を確認する

本アンケートは、笠利版地域創生戦略の進捗を、住民や笠利町と関わりのある方々の実感から確認し、今後の取組改善につなげるために実施しました。

1

現在地を知る



笠利町の暮らし・仕事・住まい・文化
などについて、
住民や関係者の実感を把握します。

2

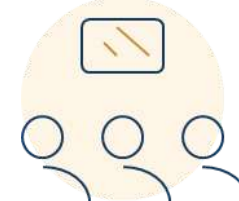
KPIを確認する



10年後の目標である「平均4.0以上」
に対し、各取組が
どの位置にあるか確認します。

3

改善につなげる



結果を地域協議会で共有し、
次年度以降の
施策・周知・取組改善に活かします。



アンケートは毎年継続して実施し、10年後に「**平均4.0以上**」を目指します。
住民の実感の変化を継続的に可視化し、よりよい笠利町の実現につなげます。

2-1

調査概要

笠利版地域創生戦略の進捗を、住民実感から確認するために実施

基本情報

調査名

笠利の未来 実感アンケート

調査期間

令和8年3月27日～4月24
日

実地主体

笠利総合支所地域総務課

有効回答数

116件

調査設計

設問数

全26問

暮らし・仕事・住まい・文化などを把握

対象

笠利町に住んでいる方、勤めている方、
笠利町と関わりのある方

評価方法

5段階評価 + 「わからない」

平均点・肯定率・否定率・不明率を確認

KPI目標

10年後に平均4.0以上

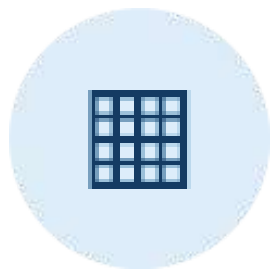
戦略の進捗確認に活用

本調査は、単なる満足度調査ではなく、10年後の「ありたい姿」に向けた現在地を確認するための基準資料として整理します。

2-2

回答導線の設計

若い世代・働く世代にも回答しやすいよう、QR回答を主軸に設計



QR回答を中心に実施

スマートフォンから
時間や場所を問わず
回答しやすい導線を整備



若い世代・働く世代へ

今年度は日中に窓口へ来にくい方も
回答できるよう、
オンライン回答を主軸化



紙回答も設置

オンライン回答が難しい方にも
配慮し、地域総務課窓口
に紙回答を設置

次回以降は、紙回答の設置場所や集落単位での案内など、より幅広い世代に届く回答機会の確保を検討します。

2-3

回収状況と今後の改善

目標200件に対し116件の回答。次回以降は、回答機会の広げ方を改善します。

回収目標

200件

人口規模約5,000人を踏まえ設定

回収結果

116件

調査期間中に得られた有効回答数

位置づけ

初回基準値

今後の継続調査で変化を確認

回収率 58.0%

116/200

次回以降の改善方向

紙回答の機会拡大

設置場所や配布方法を検討

集落単位での案内

駐在員・地域団体との連携

対象者別の周知

若年層・働く世代にも継続して発信

※今回の結果は、今後の継続調査における基準値として活用し、毎年の変化を確認します。

3-1

指標の見方

目標ラインは「平均4.0以上」

本資料では、各回答を5点～0点に換算し、設問ごとの平均点を算出しています。

「わからない」は0点として集計しているため、平均点には低評価だけでなく、認知不足・判断材料不足の影響も含まれます。

点数化のルール

そう思う 5点

ややそう思う 4点

どちらともいえない 3点

あまりそう思わない 2点

そう思わない 1点

わからない 0点

確認する指標確認する4つの視点

● 平均点

KPIの現在地を見る指標。
「わからない」0点を含めて算出。

● 肯定率

「そう思う」「ややそう思う」
の割合。前向きな実感を確認。

● 否定率

「そう思わない」「あまりそう思わ
ない」の割合。不満・課題感を確認。

● 不明率

「わからない」の割合。
認知不足・判断材料不足の
可能性を確認。

注記

※Q2は笠利町内居住者のみを対象とした設問のため、対象者のみで集計。

※3.0は5段階評価の中間値であり、傾向把握の参考線として扱います。

3-2

全26項目の結果一覧(1)

Q1~Q13

平均点・肯定率・否定率・不明率の4つの視点で、各項目の現在地を確認します。

ID	質問内容	平均点	肯定率 (4・5点)	否定率 (1・2点)	不明率 (わからない)
Q1	安心して住み続けられる	3.99	75.9%	12.1%	0.0%
Q2	住み続けたい	4.29	82.6%	8.7%	1.1%
Q3	支え合い	4.1	84.5%	7.8%	2.6%
Q4	文化の継承	4.36	89.7%	2.6%	1.7%
Q5	伝統行事の開放	3.61	62.9%	17.2%	3.4%
Q6	学習・スポーツの場	3.16	50.9%	26.7%	4.3%
Q7	歴史・自然を学ぶ場	3.09	44.8%	29.3%	3.4%
Q8	地域外・島外との交流	2.66	32.8%	33.6%	11.2%
Q9	子育て支援サービス	2.34	31.9%	21.6%	25.0%
Q10	高齢者支援体制	2.77	39.7%	21.6%	16.4%
Q11	働く場の確保	2.28	20.7%	51.7%	8.6%
Q12	求人情報の得やすさ	1.77	11.2%	50.9%	19.8%
Q13	職場体験の機会	1.65	12.1%	39.7%	30.2%

平均4.0以上（目標ライン到達）

平均3.0未満（中間値を下回る項目）

※平均点は全設問で「わからない」0点を含めて算出。Q2は笠利町内居住者のみ対象（92）。平均点は小数第2位まで表示。

3-2

全26項目の結果一覧(2)

Q14～Q26

平均点・肯定率・否定率・不明率の4つの視点で、各項目の現在地を確認します。

ID	質問内容	平均点	肯定率 (4・5点)	否定率 (1・2点)	不明率 (わからない)
Q14	短時間就労	1.88	15.5%	36.2%	25.9%
Q15	起業サポート	1.61	13.8%	26.7%	37.9%
Q16	会社・企業の増加	2.28	25.9%	39.7%	15.5%
Q17	農林水産物のブランド化	2.24	25.0%	43.1%	14.7%
Q18	地元産品の購入機会	3.02	51.7%	27.6%	7.8%
Q19	産業の定着	2.83	39.7%	36.2%	5.2%
Q20	移住・空き家情報	1.91	17.2%	39.7%	23.3%
Q21	空き家活用・住居確保	1.82	12.9%	57.8%	15.5%
Q22	集う施設	3.21	47.4%	18.1%	5.2%
Q23	インフラ維持	3.13	48.3%	25.9%	4.3%
Q24	景観と開発のバランス	2.97	44.0%	25.9%	6.9%
Q25	防災体制・意識	2.81	31.0%	19.8%	10.3%
Q26	自然保全活動・制度	2.77	32.8%	34.5%	6.0%

平均4.0以上（目標ライン到達）

平均3.0未満（中間値を下回る項目）

※平均点は全設問で「わからない」0点を含めて算出。平均点は小数第2位まで表示。

3-3

KPI達成状況の分類

目標ラインと中間値から、全26項目の現在地を整理します。

目標ライン到達

平均 4.00 以上

10年後目標の水準に到達している項目

Q2 定住意向
Q3 支え合い
Q4 文化の継承

目標未到達

平均 3.00以上 4.00未満

目標には届かないが、一定の実感がある項目

Q1 安心感 Q22 集う施設
Q5 伝統行事 Q23 インフラ維持
Q6 学習・スポーツ
Q7 歴史・自然
Q18 地元産品購入

重点確認項目

平均 3.00 未満

中間値を下回り、重点的な確認・改善が必要な項目

Q11～Q17、Q19 仕事・産業
Q20・Q21 住まい、空き家
Q9・Q10 子育て・高齢者
Q24～Q26 防災・自然環境
Q8 交流

結果の要点

文化や支え合いに関する実感が高く、笠利の強みとして確認できました。
一方で、仕事・住まい・情報アクセスなど、定住を支える条件には課題が見られます。

※目標ラインは平均4.00以上。3.00は5段階評価の中間値として、傾向把握の参考線として使用。Q1は平均3.99で、目標ラインに極めて近いものの厳密には未到達として整理。

3-4

結果のポイント

高い実感・低い実感・「わからない」が多い項目を確認します。

平均点 上位

笠利の強みとして確認

Q4 文化の継承 4.36

Q2 住み続けたい 4.29

Q3 支え合い 4.10

平均点 下位

重点的な確認が必要

Q15 起業サポート 1.61

Q13 職場体験 1.65

Q12 求人情報 1.77

不明率 上位

認知不足・判断材料不足の可能性

Q15 起業サポート 37.9%

Q13 職場体験 30.2%

Q14 短時間就労 25.9%

結果から見えること

文化・定住意向・支え合いは高い一方、仕事・情報アクセスでは低い実感が見られます。特にQ15は、平均点が最も低く、不明率も最も高い項目です。

※平均点は「わからない」0点を含めて算出。Q2は笠利町内居住者のみを対象に集計（N=92）。